

議会のき うごき 上島町議会

平成25年 第4回定例会

本定例会は12月20日に招集され、会期を2日間と決めましたが、1日で審議等を終え閉会しました。なお、行政報告、各議案の主な内容及び議決結果は次のとおりです。

上村町長の行政報告

まず冒頭にあたり、同じ全国離島振興協議会で活動している東京・伊豆大島町における台風26号による豪雨並びにフィリピンをはじめ世界各地において自然の脅威による災害で亡くなられた方々に心から哀悼の意を表するとともに、被害に遭われた皆様に対しましてお見舞いを申し上げます。本年は、防災対策や危機管理の重要性を改めて認識させられる年になり、上島町においても更なる備えを実施してまいります。

本日は平成25年第4回の定例会を招集いたしましたところ、おおかたの出席をいただき誠にありがとうございました。

9月定例議会後の、行政活動内容や資料についての詳細は、上島町ホームページ内の町長活動報告にて代えさせていただきます、この場においては主な事項のみを報告させていただきます。

9月24日には町村長会と議長会が合同で開催することとなってから、第3回目を迎えた「四国四県町村長・議長大会」が尾崎高知県知事・藤原全国町村会会長など来賓多数をお迎えし、高知市で開催されました。各県からの提案議題が満場一致で議決され、「慎重なPPP交渉」、「道州制反対」について実行運動を展開することになりました。細かい内容については職員にレポートしており、

特に道州制については、「道州制」という聞こえのよい言葉に振り回されることなく、上島町にとって、上島町民にとつて何が一番良い体制であるか、職員も考えるよう指示しております。

私は、上島町のような自治体は「地方分権」を唱えるべきであり、必要な時に国の出先機関に知恵と支援をいただきながら、行政運営に努める方がベストだと考えております。

翌25日には中土佐町を訪問しました。人口・世帯数とも上島町とほぼ同じ規模であり、太平洋に開けた海岸部と四万十川源流の里が一体となった、自然豊かな町で、以前から親交のある池田町長を表敬訪問し、津波対策等についての意見交換や視察を行いました。また、10月24日には池田町長が松山での会議の後来町されました。その時に感心しておられたのが、職員の対応や挨拶の良さと机の上が片付いているということでした。以前に国会議員の先生からも、上島町には活気があるということ、町自体が綺麗であるというお話をいただいたことがあります。私にとつて町や職員が褒められることは何よりも嬉しく、上島町が「世界に誇れる町」として歩んでいることを感じています。

9月26日にはサービス付き高齢者向け住宅の地鎮祭に出席しました。このサービス付き高齢者住宅とは、地元の民間活力による高齢者のための施設整備であり、日常生活の場において生活支援サービスが付いている高齢者向け賃貸住宅のことです。具体的には、住宅の入居者が安心して生活できるようにヘルパーなどの介護の専門家による見守りや生活相談のサービスが提供されます。更に、この施設には地元介護事業者が運営する小規模多機能型居宅介護施設が併設されますので、介護度の高い方の入居にも対応できます。また、地元医療機関と連携する施設ですので、介護と医療の両面で入居者の安心を支えます。入居料につきましてもこの住宅はお年寄りのための福祉施設と言う公共性がありますので、町有地の賃借料を低くすることや補助金を交付することなどで町も支援しており、近隣の同様な施設に比べて安い価格で設定されています。

以前から申し上げているように、新規の介護関連施設につきましては、技術や経営ノウハウあるいは資本を持つ民間活力の導入を基本としており、今後、岩城地区をはじめとする他の地域にも同様の施設が進出できるよう、今回のような側面支援を実施したいと考えています。

9月29日には久万高原町で開催された「石鎚山ヒルクライム」の自転車レースに参加しました。このレースはただひたすら20km、標高差1,000メートルの石鎚山を登り続けるというもので、中村知事や高野久万高原町長をはじめ約600名の方々と完走しました。私にとつては珍しい山々の素晴らしい景観ではありましたが、瀬戸内の島々を頼に潮風を受け、小波の音を聞きながらゆつたりと自転車で走るほうが、一般の愛好者には喜ばれるのではと感じた一日でもありました。

平成24年10月1日からスタートした「上島町観光専用自転車船賃無料化事業」いわゆるサイクルフリーは一年が経過しました。この一年間での利用人数は4,043人で、遠くは大阪府303人、東京都248人など、北は北海道、南は熊本県、また、海外からは香港から8人、カナダから1人のサイクリストも来島していただきました。

今後は、これらのデータを分析するとともに、サイクリングブームを活かした「サイクリングアイランド構想」に取り組みたいと考えております。

今年のかみじまの秋祭りは、10月5日魚島地区から始まり27日の引野・明神地区で最終日を迎えました。幸いにも私はほぼ全地区の秋祭りに参加することができ、古くからの交流や新たな体制を目的の当たりになりました。この交流が更に大きくなることを願うとともに、各地区の特色のある「だんじり」が一堂に会し上島町の開町を祝った時のように、来年の合併10周年記念イベントにも花を添えていただきたいと願っております。

10月20日には瀬戸内しまなみ海道において、「サイクリングしまなみ2013」が開催されました。この大会は、来年の瀬戸内しまのわ2014のメインイベントであり上島町も舞台となる「瀬戸内しまなみ海道・国際サイクリング大会」の実施に

当たり、国内最大級の国際大会の成功に向けて国内外へのPRのほか大会運営の検証などを図ることが目的です。私も「チームカミジマ」の一員として参加し大島コースの約110kmを完走しました。日本初となる高速道路を通行止めにしてのサイクリング大会は、雨模様にもかかわらず県職員、今治市職員、協力団体・企業等から約1,900名にも及ぶスタッフによって大会運営を支えていただき、各島民からも温かい応援をいただいたことに改めて感謝申し上げます。



サイクリングしまなみ2013

10月26日には愛媛えひめの会が主催する「愛媛えひめのわくわくトーク」が町内3ヶ所で開催され、私もパネリストとして招待を受け、中村知事とディスカッションさせていただきました。知事からは上島町が持つ地域資源や魅力に触れ、上島町を盛り上げていただく17ものアイデアの提案があり、岩城橋架橋についても心強い言葉をいただきました。途中からはサイクリングの話題で盛り上がり、上島町でのサイクリングツアーの実施や上島架橋の利便性の良さや美しさを世界に発信するため、岩城島から弓削島をつなぐ橋や道路の愛称を募集することを約束しました。募集につきましては、1月15日が締め切りとなっておりますので、皆様の応募をお待ちしております。

10月28日には台風27号の長雨による土砂災害が発生した魚島地区の災害現場を視察しました。幸いにも民家等には被害が出なかったものの、山の斜面が崩れ、自主避難ではありましたが、6世帯8名の方々が一時避難を余儀なくされました。引き続き安心して生活していただけるよう早期復旧を県に要望しております。

10月29日には今治市において、県内各市町の首長と知事をはじめとする県幹部との懇談「えひめトップミーティング」が開催されました。主な議題は「瀬戸内しまのわ2014」、「愛媛マルゴト自転車道の推進について」の2議題で、瀬戸内し

まのわ2014については、瀬戸内海国立公園指定80周年と、しまなみ海道開通15周年という節目の年を、瀬戸内という世界に誇れる観光資源を生かして交流人口の拡大を図り、持続的な瀬戸内エリアの活性化を目指すものです。来年3月21日から10月26日までの7ヶ月間、愛媛・広島両県の島しょ部及び臨海部で自治体企画イベントや民間企画イベントなどが開催されます。本町においては、4月の「桜まつり」と8月の「ふるさと夜市」について、地元の見聞を吸い上げていただいた上でブラッシュアップさせていく方向であり、さらには民間の企画イベントについても夏の時期を中心に5事業の認定をいただいております。また、来年の合併10周年記念イベントについても、しまのわの自治体企画イベントとして捉えていただき、世界に上島町を認知していただく絶好の機会でありますので、町民の皆様とともに大いに楽しみたいと思っています。

もう一つの議題であります愛媛マルゴト自転車道の推進については、愛媛県が県下20市町と連携して、瀬戸内しまなみ海道を中心に、県全域で誰もが自転車に親しみ、自転車を楽しめる「愛媛マルゴト自転車道」を展開するもので、中・上級11コース、ファミリーコース15コースにブルーラインやサイクリングコース案内板等を設置することとなっております。上島町においては、県内15コースあるファミリーコースの中で他市町に先駆けて「生名島・佐島・弓削島3島めぐりコース」を選定していただき、来年度事業としてブルーライン等を設置することとなっております。

優先して選定された要因は、沿道に公衆トイレやサイクルオアシスが整備されていること、サイクルツアーやレンタサイクル等ソフト面においても熱度が高いと認めていただいたためです。

11月1日には、離島振興対策協議会と全国離島振興協議会合同による、平成26年度離島振興関係事業予算の確保に関する要望活動を実施しました。これは来年度国家予算の編成にあたり、かかる離島の実情と「離島振興法」並びに「海洋基本法」に明記された国家的国民的役割に鑑み、新しい離

島振興法に基づく関係予算の確保を要望するもので、3班に分かれた上、私は2班の班長として総務省や文部科学省・文化庁並びに財務省、関係国會議員への陳情を行いました。

2日には魚島での文化祭・芸能発表会に出席した後、生名小学校体育館において体操のお兄さんでお馴染みの佐藤弘道さんをお迎えした、上島町子育て講演会に参加しました。午前中は親子体操教室が行われ、約180名の参加者が親子で触れ合える体操で体を動かし、会場はたくさんの方々の笑顔であふれていました。午後からは、保育士や教員等子供に関わる指導者を対象に講演が行われ、中には今治市や尾道市からの指導者の参加者もあり、ひろみちお兄さんの実演を交えたご講演で楽しいひと時を過ごすことができました。

11月5日には平成26年度当初予算の編成基本方針を職員に示しました。

本町の財政状況については、継続して財政健全化に努めた結果、平成24年度決算で実質公債費比率等全ての財政健全化判断比率において県内上位の数値を維持しており、一般家庭の定期貯金に相当する基金は、県下3位の高い徴収率と経費節減、適切な財源活用等により、寄付金に係る特定目的基金以外では4年連続で取り崩しを行わない、健全な財政運営を持続しています。

しかし、今後の財政見通しにおいて、歳入では、過疎・高齢化が急激に進行する中、個人町民税の大幅な増加も見込めない状態にあつて、歳入の4割以上を占める地方交付税が、平成27年度から始まる実質的な普通交付税の合併特例措置の段階的縮小により、年々予算編成が困難となる見通しを踏まえ、全ての事業の必要性を改めて総点検した上で、経費の節減に努めなければならない厳しい現状にあります。

一方、歳出については高齢化の進展等を背景に医療や介護給付等にかかる社会保障関係費が高まっております。併せて国の経済対策等に伴う町債の償還金などの公債費も増大している状況にあります。このような上島町財政の今後予想される厳しい状況においても、全職員が共通の認識の上に立ち、

本町が健全で安定した財政基盤を確立し、自主的・自立的な行財政運営を推進する必要があります。歳入面では町税等の収納率の更なる向上や滞納額の縮減、未利用財産の活用等自主財源の確保に努め、歳出面においては、必要性・効率性の徹底した検証による見直しや事業の再編などにより、限られた財源を有効に活用した予算編成に全庁一丸となって取り組んでまいります。

予算編成の基本方針として、合併10周年を迎え、新たな上島町の船出となる平成26年度予算編成に当たっては、歳入に見合った歳出「入るを量りて出ざるを制す」という財政規律を基本に、社会情勢の変化に柔軟に対応しつつ、緊急性・重要性の高い事業を選択することにより「最小の経費（コスト）で最大の効果（サービス）」を上げることが目指します。

歳入については、これまで以上に町税等自主財源の確保に努め、歳出については予算編成が全事業の洗い出しでもあることから、コスト意識を持ち、先例にとらわれることなく、住民目線・家計目線で積極的に事業の見直しを進めることとし、安易に新規・増額要求を行うことなく、課内での事業調整を行うなど、スクラップアンドビルド・プラスアルファの原則の徹底を図ります。

さらに、東日本大震災被災地復興に向けた息の長い支援を行うとともに、防災・減災対策にも積極的に取り組むこととし、大震災によって明らかになった事業等を徹底的に分析・検証した上で、東南海・南海地震に備えた災害に強い町づくりの推進に必要な経費の計上はもろろんのこと、介護や子育て等、町民生活の安全を守り、安心を支えるという基礎的自治体の役割を踏まえた経費を計画的に計上することを基本方針としました。

11月10日、岩城島において「大収穫祭！青いレモンまつり&しまなみ・かんぎつフェスタ2013」が開催されました。島内外から昨年を大きく上回る来場者をお迎えし、青いレモン料理コンテストや青いレモンのカクテル講座、農産物品評会等のイベントが好評でした。愛媛県産地育成室技術普及グループの皆様やイベントに携わっていた

いただきました関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

11月13日、せとうち交流館において上島町老人クラブ連合会第9回カラオケ交流会が開催されました。松田政留連合会長におかれましては、多年にわたる老人クラブ活動の推進とその育成発展に尽力され、老人福祉の向上に貢献された功績が認められ「全国老人クラブ連合会長表彰」を受賞されたご栄誉を心からお慶び申し上げます。

出演者58名、応援者94名と回を重ねるごとに人数が増えている状況を拝見し、カラオケによる健康維持も行政施策の一つになるのではないかと考えています。私も幕開けに1曲歌わせていただきましたが、各老人クラブののど自慢がそれぞれお気に入りの1曲を披露し、好きな曲が流れると一緒に口ずさんだり手拍子をしたりするお元氣な姿に圧倒される思いでした。

11月18日から22日にかけて上京し、各団体の全国大会や総会に出席しました。18日の離島振興60周年功労者表彰式では、離島甲子園の大会提唱者である村田兆治さんをはじめ多数の皆様の出席があり私も長年の経緯による受賞者の一人となりました。表彰式前には、太田国土交通大臣との懇談時間もあり、国土交通省の局長や審議官、離島振興課課長等の幹部の方々のご臨席も賜りました。また、その後の「記念講演」では元自民党幹事長でもあり離島振興特別委員会の委員長でもあった武部勤氏の有意義な話を聞かせていただきました。武部氏は平成22年2月に、当時離島振興特別委員会事務局局長であった宮腰光寛衆議院議員と共に上島町を視察するため来町され、離島の現状を訴えるまたとない機会に恵まれたことを思い出します。有り難かったのはその講演会の中で「上島町」の名前が多く出てきたことであり、その記憶力に改



大収穫祭！青いレモンまつり&しまなみ・かんぎつフェスタ2013

めて驚かされました。その後、愛媛県選出の国會議員をはじめ、全ての党から多数の国會議員をお迎えして、意見交換会が開催されました。公明党の山口代表や以前にお世話になった国土交通省の歴代の局長、審議官や離島振興課の職員と久しぶりにお会いすることができ、とても有意義な時間となりました。

19日の午前中は全国治水砂防促進大会が開催され、午後からは四国4県が合同で県選出の国會議員や関係各省を訪問、財務省では山本博司財務政務官に直接陳情を行うことができました。

20日には離島関係予算確保会議への出席と各省庁への要望活動を行い、その後、安倍総理大臣の出席により、自民党政権復帰後初めての全国町村長大会に参加しました。決議・意見・実行運動方法が議決された後、愛媛県選出国會議員との意見交換会に参加し、上島町の現状について報告、要望を行いました。

21日には水産業振興・漁村活性化推進大会、全国浄化槽推進市町村連絡協議会理事會並びに総会、国保制度改善強化全国大会、22日には今年から就任した日本赤十字社理事會にも出席しました。

23日には上島町から1名職員派遣を行っている宮城県山元町の「心をひとつに山元町ふれあい産業祭」に参加しました。上島町からは産業振興課の職員を中心とした5名（内2名がボランティア）が設置された上島町ブースで熱心に上島町の特産品を売り込み、その売上は山元町に全額寄付させていただきます。その日に東京に戻り池袋サンシャインシティにおいて、国土交通省・日本離島センターが主催する「アイランダー2013」に参加しました。会場は日本全国の島々が特産品を持ち寄り島のPRを行う観光物産展並びに定住促進に関する移住相談などを行い、本町からは青いレモンや自然農法で作った蜜柑などを販売しました。ま



山元町ふれあい産業祭

た、上島町の魅力を体験するPRなども行い上島町への来訪につなげるため、参加した関係者は声を枯らしながらがんばっていました。

11月26日には魚島地区において、まちづくり懇談会を開催しました。8月26日生名地区を皮切りにスタートした、今年で合併後8回目となるまちづくり懇談会は、直接町民の皆様からの声を聞かせていただき、その場で意見交換の出来る貴重な機会でありました。寄せられたご意見やご要望の中には、地域住民でないと気がつかないものもあり、一緒に外向いて行った管理職員も町民の皆様目線に立って、今後の行政運営に反映してくれるものと信じております。

27日には上島町と上島町内の金融機関との「上島町の活性化に向けた連携・協力協定」の締結式を行いました。この協定は、株式会社愛媛銀行、越智今治農業協同組合、弓削漁業協同組合、岩城生名漁業協同組合、魚島村漁業協同組合の5金融機関と上島町が特産品の販路拡大、販売促進の支援や上島町ブランドの魅力向上と発信に関することなど、それぞれが保有する情報やノウハウ等を有効に活用しながら、上島町の優れた産品を他の地域へアピールするなど、広く地域産業の振興や活力ある個性豊かな地域経済の発展に寄与することや上島町が取り組む重要施策などへの支援を目的として締結したものです。



上島町の活性化に向けた連携・協力協定締結式

12月3日には上島町内遺跡発掘調査事業指導委員会による調査結果報告や今後の調査方法とスケジュールについてなどの会議、並びに現地調査が実施されました。今回は、委員や町職員の他に文化庁調査官や愛媛県文化財保護課職員なども参加され、私も直接お話を聞かせていただく機会がありました。

上島町内の遺跡は他に例を見ない重要な文化財である可能性が大であり、今後は国の史跡指定を目指して、歴史や伝統文化を更に掘り起こすこと

にも力を注ぎ、上島町の「誇り」を呼び起こしたいと考えています。

8日に開催した「かみじま音楽祭」には町内はもとより、町外や県外から大勢のお客様をお迎えし、素晴らしい成果を収めました。午前中には町内各小・中学校生徒による楽器演奏や合唱があり、弓削高等学校や弓削商船高等専門学校生徒さんも出演してくれました。午後からは快晴のもと、屋外での太鼓やバンドの演奏、出店に大行列の人々、同じ離島出身のBEGGINのコンサートなど、多くの人達が笑顔に包まれました。全ての内容が良かったことは言うまでもありませんが、私が嬉しかったのはBEGGINの皆さんが子ども達の演奏や歌を見てくれていたということ、実行委員会や町民の皆さんの協力があつたということ、そして職員が心のこもった「おもてなし」をしてくれたということです。生徒全員で合唱した「太陽のメロディー」の中にある、「みんなこの街が好きだから」という歌詞が胸に刻まれた一日でした。



かみじま音楽祭

結びに、政治の原点とは「弱い立場の人に政治の光を当てる」ことです。映画化され話題となった「のぼうの城」という本の中に、「武ある者が武なき者を足蹴にし、才ある者が才なき者の鼻面をいのように引き回す。これが人の世か。ならばわしはいやじゃ。わしだけはいやじゃ。それが世の習いと申すなら、このわしは許さん。」という成田長親の言葉が書かれています。これは戦国の時代、豊臣秀吉が北条氏（小田原）征伐に総攻撃をかけた時、豊臣方2万を超える大軍に500人の武士と2500人の農民が籠城戦で挑み、北条勢で唯一落城しなかった総大将の言葉です。

この武士道の心の叫びのように、強き者・数の多い側が弱き者を虐げ、小才のきく者だけがうま

く立ち回り、人が好く、愚直なだけを取り柄の者は踏み台になる、そんな上島町になつてはいけません。

条件に恵まれている都市部がよく使う、「費用対効果」という経済用語のみを持ち出して、強い者にとつて都合のいい解釈では離島環境の改善は何もできません。そこに「生活する島民の声」、その「地域の実情」を反映させる事こそが、私やこの議場に集う皆様に課せられた使命ではないでしょうか。何の為に町政に携わるようになったのか、それは、「弱者の声に耳を傾ける為」、「上島町のために力を尽くしたい」との思いであるはずです。

私はこれからも、町民の皆様の信任を得た自らの政治信条を貫き、この声なき声を代弁していきたいと考えています。

各議案の主な内容及び議決結果

条例議案

■上島町子ども・子育て会議条例

子ども・子育て支援法施行（平成24年8月22日施行）に伴い、上島町子ども・子育て会議条例を策定する必要があるため。

——原案可決——

■上島町後期高齢者医療条例の一部を改正する条例

地方税法の一部改正（平成25年4月1日施行）に伴い、後期高齢者医療に関する条例の変更をする必要が生じたため。

——原案可決——

■上島町障害者自立支援審査会の委員の定数を定める条例の一部を改正する条例

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律が改正されたことに伴い、上島町障害者自立支援審査会の委員の定数を定める条例

の変更をする必要が生じたため。

― 原案可決 ―

■上島町税条例の一部を改正する条例

地方税法の一部改正（平成25年4月1日施行）に伴い、上島町税条例の変更をする必要が生じたため。

― 原案可決 ―

■上島町国民健康保険税条例の一部を改正する条例

地方税法の一部改正（平成25年4月1日施行）に伴い、国民健康保険税条例の変更をする必要が生じたため。

― 原案可決 ―

■上島町社会教育委員設置条例の一部を改正する条例

公民館運営審議会の委員の委嘱の基準を条例で定めるに当たって参酌すべき基準を定める省令の一部を改正する省令の施行に伴い、上島町社会教育委員設置条例の一部改正する必要が生じたため。

― 原案可決 ―

■上島町社会体育施設条例の一部を改正する条例

上島町社会体育施設の関係規定を整備する必要が生じたため。

― 原案可決 ―

補正予算議案

■平成25年度上島町一般会計・特別会計（11会計）補正予算《全12議案》

■一般会計【補正額】

【総額】 8750万円

― 原案可決 ―

■特別会計（11会計）

国民健康保険	補正額	国民健康保険診療所	補正額
国民健康保険	4430万円	国民健康保険診療所	30万円
国民健康保険	12億4300万円	国民健康保険診療所	6590万円

その他議案

― 原案可決 ―

■愛媛県市町総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少及び組合規約の変更について

内山衛生事務組合の解散及び伊予市の共同処理事務からの脱退に伴い、組合を組織する地方公共団体の数の減少及び組合規約を変更する必要が生じたため。

― 原案可決 ―

■愛媛県市町総合事務組合の共同処理事務構成団体から脱退に伴う財産処分について

構成団体である伊予市が日本国内で交通事故により災害を受けた構成団体の住民、又はその遺族の生活の共済に関する共同処理事務構成団体から脱退することに伴い、愛媛県市町総合事務組合の財産処分について協議する必要が生じたため。

― 原案可決 ―

■愛媛県市町総合事務組合からの構成団体の脱退に伴う財産処分について

内山衛生事務組合の解散に伴い、愛媛県市町総合事務組合の財産処分について協議する必要が生じたため。

― 原案可決 ―

■人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて

【住所】 上島町生名705番地

【氏名】 村上 寛仁

― 適任 ―

【住所】 上島町魚島1番耕地224番地

【氏名】 中村 一義

― 適任 ―

■上島町体験研修施設「知新館」の指定管理者の指定について

【施設の名称及び所在地】

上島町体験研修施設「知新館」

上島町岩城875番地

【指定管理者】 上島町岩城2920番地

岩城島農村塾

代表者 脇 義富

【指定期間】

平成26年4月1日から平成29年3月31日

― 原案可決 ―

■上島町津波コミュニティアイランドの指定管理者の指定について

【施設の名称及び所在地】

上島町津波コミュニティアイランド

上島町岩城7829番地

【指定管理者】 上島町岩城1540番地

津波島を守る会

代表者 砂川 光洋

【指定期間】

平成26年4月1日から平成29年3月31日

― 原案可決 ―

■教育委員会委員の任命について

【住所】 上島町弓削下弓削309番地1

【氏名】 松本 光弘

― 不同意 ―